

6. 病害虫防除

■ 薬剤散布 (スチューベン)

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
開花10日前 6月上旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
	又はキノンドー水和剤40	600倍	又はバダンSG水溶剤	1,500倍
	又はインターフロアブル	8,000倍	又はアグロスリン水和剤	2,000倍
	又はオンリーワンフロアブル	2,000倍	又はアディオフロアブル	1,500倍
開花直前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
	又はゲッター水和剤	1,500倍	又はバダンSG水溶剤	1,500倍
落花直後 6月下旬 (250リットル)	ロブラール水和剤	1,500倍	アグロスリン水和剤	2,000倍
	又はポリペリン水和剤	1,000倍	又はアディオフロアブル	1,500倍
	又はスイッチ顆粒水和剤	2,000倍	又はジノテフラン剤※	2,000倍
	又はフルピカフロアブル	2,000倍		

※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

- 注) 1 灰色かび病の発生が多い圃地では、開花直前にゲッター水和剤を選択する。
2 ペト病の発生が多い圃地では、開花10日前にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40、開花直前にアリエッティC水和剤を選択し、落花直後にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。
3 黒とう病の発生が多い圃地では、開花直前にアリエッティC水和剤、落花直後にポリペリン水和剤を選択する。

〈シャインマスカット（露地栽培）〉

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
新梢伸長期 (約30cm) 6月上旬 (200リットル)	ジマンダイセン水和剤	1,000倍		
	又はインターフロアブル	8,000倍		
	又はオンリーワンフロアブル	2,000倍		
開花10日前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
			又はバダンSG水溶剤	1,500倍
開花直前 6月下旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
			又はバダンSG水溶剤	1,500倍
落花直後 7月上旬 (250リットル)	ロブラール水和剤	1,500倍	アグロスリン水和剤	2,000倍
			又はアディオフロアブル	1,500倍
			又はジノテフラン剤※	2,000倍

※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

注) ペト病の発生が多い圃地では、落花直後にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。

おとうとう

佐藤錦（鶴田町苜蒲川）の満開日は4月27日で平年より8日早く、落花日は5月8日で平年より7日早かった。

適期管理と適期防除で品質向上に努めよう！

1. 裂果防止対策

雨よけハウスの被覆は着色した果実が見え始めた頃に行い、裂果防止に努める。

2. 着色管理

(1) **葉摘み**
果実の着色がある程度進んだ頃（おおむね収穫予定の7～10日前頃）から行い、果実に直接かぶさっている葉を軽く摘み取る。過度の葉摘みは果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不足、樹勢の低下を招くおそれがあるので、**摘み取る量は最小限にとどめる。**

(2) **サンキャッチ液剤30Sの利用**
着色促進のため以下により使用する。

■ サンキャッチ液剤30Sの使用法

対象品種	佐藤錦、南陽
処理方法	600倍液を立木全面散布
処理時期	収穫開始14日前（着色が樹全体の2～3割頃）と7日前の2回
散布量	300リットル/10a

注) 1 散布直後の降雨は効果を減じるので、晴天日に散布する。
2 樹冠内部が暗いと効果が劣るので、樹冠内部の明るさを適正に保つ。
3 展着剤は不要である。
4 他の薬剤と混用せず、単用で用いる。



農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。

3. 病害虫防除

■ 薬剤散布

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
満開35日後 6月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	テルスターフロアブル	4,000倍
	又はファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	又はエクシレルSE	2,500倍
	又はナリアWDG	2,000倍	又はテッパン液剤	2,000倍
	又はアンビルフロアブル	1,000倍		
	又はオンリーワンフロアブル	2,000倍		
収穫前【佐藤錦】 6月中～下旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	スカウトフロアブル	3,000倍
	又はナリアWDG	2,000倍	又はエクシレルSE	2,500倍
	又はインターフロアブル	5,000倍		
収穫前【晩生種】 7月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	スカウトフロアブル	3,000倍
	又はナリアWDG	2,000倍	又はテルスターフロアブル	4,000倍
			又はエクシレルSE	2,500倍
			又はテッパン液剤	2,000倍

※農薬はおとう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。

注) 1 満開35日後頃に、紅さやかななどの早生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
2 カメムシ類対策では、満開35日後や収穫前に発生がみられた場合は、テルスターフロアブルを選択する。
3 収穫前にアウトウシヨウバエ対策でスカウトフロアブルを使用するとカメムシ類防除剤は必要ない。
4 アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インターフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。
5 アミスター10フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、アミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤は連続使用しない。

4. 収穫

収穫は満開日からの日数が目安になるが、天候によっては早まることもあるので、品種の特性（着色、大きさ、形状、食味など）を重視し、成熟したもののから順次、数回にわたって行う。

■ 各品種の収穫期

品種	満開日から収穫日までの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
ジュノハート	55～60日
紅秀峰	60～70日
サミット	60～65日
南陽	60～65日

野菜

トマト

1. 温度管理

ハウスの温度は昼間25℃前後で管理する。天候により高温障害が発生しないよう、サイド換気や肩換気を行う。
気温が低い日や夜間はサイドを開め、保温に努めるが、6月中旬以降、最低気温が14℃以上になれば、夜間もサイドを開放する。

2. 着果促進

1～4段花房は4番花開花始め、5段花房以降は3～4番花開花始めにトマトーン処理をする。処理はなるべく気温が高温にならない午前中の時間帯に行う。

3. かん水・追肥

本格的なかん水・追肥は、3段花房の開花期から行う。
かん水量は1株当たり1.5リットルを基準とする。28℃以上の気温が予想される日は、1株当たり2リットルとする。2本仕立ての場合は、側枝1本を1株で換算する。かん水間隔は天候状態をみながら調整する。

〈かん水と追肥量の目安〉

月	旬	かん水量/1株当	かん水間隔	10日間の窒素成分合計
6	上	1.5%	1～2日おき	1.5～2.0kg/10a
	中～下	1.5～2.0%	毎日～1日おき	2.0～2.5kg/10a

メロン

1. 温度管理

定植後は最高気温28～30℃、開花期は最低気温12～15℃を目安に、トンネルの開閉などでこまめな温度・湿度管理を行う。特に夜間の閉めきりは軟弱徒長となり、病害虫の発生の原因となるので、こまめな開閉を心がける。（外気の最低気温15℃以上なら夜間開放）

2. かん水

開花期の**かん水**は、湿度の上昇により花粉が出にくくなるので**控える**。
着果確認後（鶏卵大の頃）から着果**2週間後頃**までかん水を行う。1回の量は、株当たり4リットルが目安となるが、**土壌水分により加減する**。
草勢（つる先の立ち上がり、葉色、孫づるの伸長）を見て、液肥や葉面散布を行う。

3. 摘心と整枝

- (1) **結果枝（孫づる）の摘心**
- ⑦ **弱勢の場合**：着果節位を1～2節上げ、着果確認後に、孫づるの葉1枚を残し、摘心する。
 - ⑧ **適勢の場合**：開花前後に孫づるの葉1枚を残し摘心する。
 - ⑨ **強勢の場合**：開花予定日の3～4日前に孫づるの葉1枚を残し、摘心する。
- (2) **結果枝以外の整枝**
22～23節で子づるを摘心する。15～20節の孫づるを除去する。
整枝は着果後10日までに終了し、風通しを良くし、ネットの形成を促進する。
果実肥大期は、受光体勢を維持するため、茎・葉を動かさないようにする。

花き

トルコギキョウ

1. 定植作業

10月出荷の作型では、6月下旬頃までに定植する。老化苗は生育が劣るので、本葉が4枚展開までのものを使用する。
高温時の定植では、定植1週間前から遮光率40%程度の遮光資材を用いて地温を下げておき、活着を確認したら曇天または夕方に被覆資材を除去する。
定植は深植えとせず、株元を強く押さえないようにする。

2. 定植後の管理

気温25℃以上が続くと生育の停滞やロゼットの要因となるので、遮光や換気等で温度管理を徹底し、発らいまでは乾燥させないように管理する。
分枝が低節位から発生した場合は、主茎促進のため、5節まで（草丈15cmまで）のものを早めに摘み取る。

3. 病害虫防除

白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類及びハモグリバエ類が発生しやすい時期なので、過湿や多肥を避け、早期発見・早期防除に努める。また、ヤガ類の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや出入口等に防虫ネットを早めに設置する。

6～8月は「農薬危害防止運動」実施期間です

農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう！

- 使用し残った農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認してください。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

町農業委員会では、毎年6月中旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。
農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。



【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場産業課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>